



国連食料システムサミット before after



令和4年3月12日 シンポジウム:持続可能な食料システムに向けて
農林水産省 農林水産審議官 新井 ゆたか
輸出・国際局国際戦略グループ 舟木康郎

本日の内容

1. 国連食料システムサミットとは

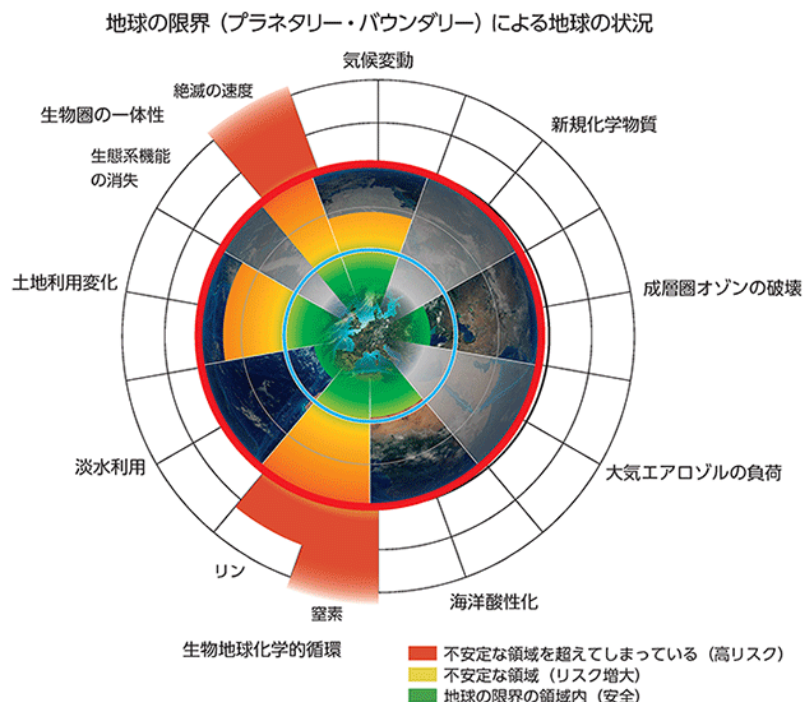
2. After 食料システムサミット

1. 国連食料システムサミットとは

地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）とEUの新政策

○地球の変化に関する9つの環境要素のうち、**種の絶滅**の速度と**窒素・リンの循環**については、不確実性の領域を超えて**高リスク**の領域にあり、また、気候変動と土地利用変化については、リスクが増大する不確実性の領域に達している。

○EUは2020年「**ファームtoフォーク（農場から食卓まで）**戦略」を公表、持続可能な食料システムへの包括的アプローチを示し、これを**グローバルスタンダード**にすることを目指している。



出典:Stockholm Resilience Centre (illustrated by Johan Rockstrom and Pavan Sukhdev, 2016)に環境省が加筆



EU ファームtoフォーク戦略の数値目標 （目標年2030年）

- 化学農薬の使用及びリスクの**50%削減**
- 一人当たり食品廃棄物を**50%削減**
- 肥料の使用を少なくとも**20%削減**
- 家畜及び養殖に使用される抗菌剤販売の**50%削減**
- 有機農業に利用される農地を少なくとも**25%に等**

農業由来の温室効果ガス（GHG）の排出

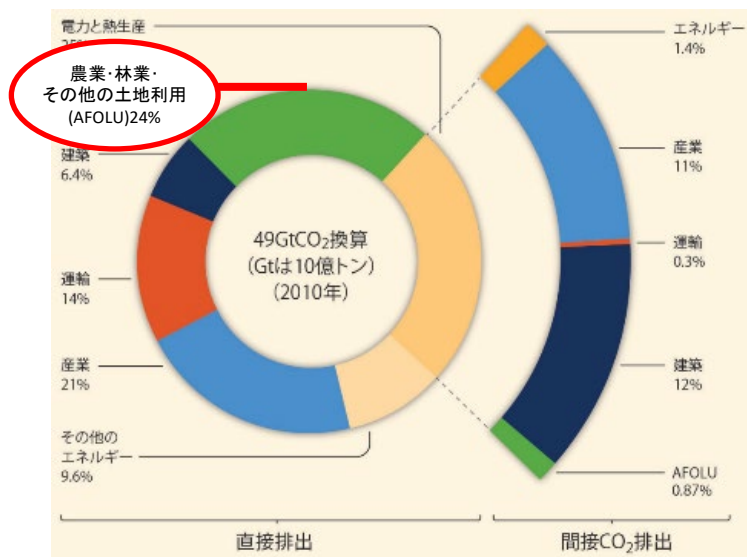
○世界のGHG排出量は、490億トン（CO₂換算）。このうち、農業・林業・その他土地利用の排出は世界の排出全体の**1/4**。（2010年）

○日本の排出量は12.4億トン。農林水産分野は約5,001万トン、全排出量の**4.0%**。（2018年度）

〔農業分野からの排出について、主な原因は、水田、家畜の消化管内発酵、家畜排せつ物管理等によるメタンの排出や、農用地の土壌や家畜排せつ物管理等。〕

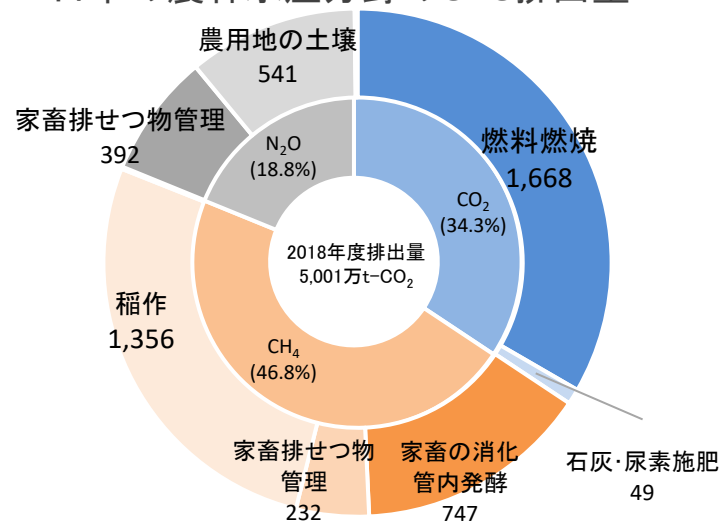
※日本の吸収量は約5,590万トン。このうち森林4,700万トン、農地・牧草地750万トン（2018年度）。

■ 世界の経済部門別のGHG排出量



出典: IPCC AR5 第3作業部会報告書 図SPM.2

■ 日本の農林水産分野のGHG排出量



単位: 万t-CO₂

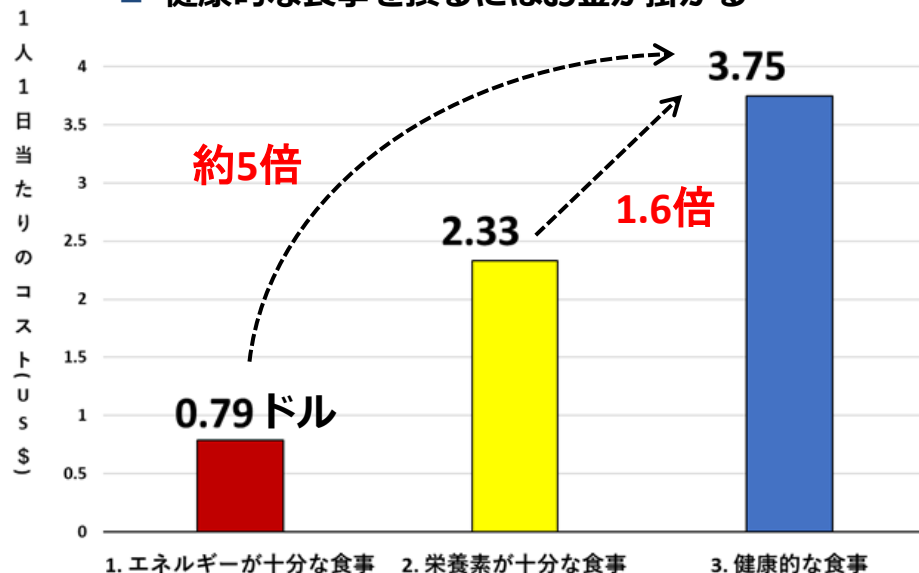
* 温室効果は、CO₂に比べメタンで25倍、N₂Oでは298倍。

データ出典: 温室効果ガスインベントリオフィス (GIO)

健康的な食事と必要なコスト

- 食料安全保障は、食料を単に供給する（量的側面）だけでなく、健康で肥満や病気等の問題が起きないこと（**質的側面**）も考えるべきであるという議論が近年盛んになってきている。
- 世界で30億人以上の**貧困層**は、所得に比べて価格が高いため健康的な食事を摂ることができない。また、15億人以上の人々は、十分な栄養素を含んだ食事を摂ることすらできない。
- 途上国の場合、もっと野菜や果実の生産を支援して価格を引き下げるべきだという議論がある。

■ 健康的な食事を摂るにはお金が掛かる



出典：FAO The State of Food Security and Nutrition in the world

1. エネルギーが十分な食事

毎日の活動のためのカロリーが十分供給されている食事。主要なでんぷん供給源であるトウモロコシ、小麦、コメ等中心の食事。

2. 栄養素が十分な食事

十分なカロリーに加え、必要な範囲で炭水化物、タンパク質、脂肪、必須ビタミン、ミネラルの栄養素をバランス良く摂取できる食事(例：コメ、肉、野菜など)。

3. 健康的な食事

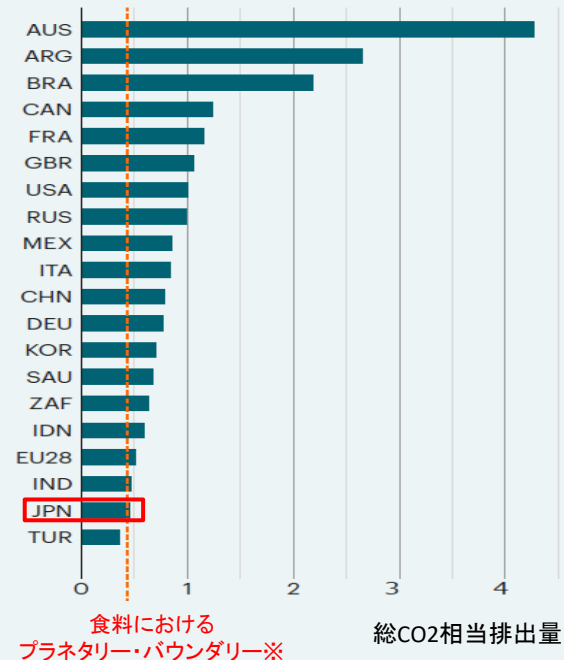
十分なカロリーと栄養だけでなく、より多様な品目をバランス良く摂取できる食事。全粒穀物、豆類、多くの、かつ多種類の果物と野菜を含み、適量の卵、乳製品、鶏肉、魚及び少量の赤身肉を含みうる。

「健康的な食事」により年間1,080万～1,160万人の死亡を回避することができる。（Willet et al.,2019）

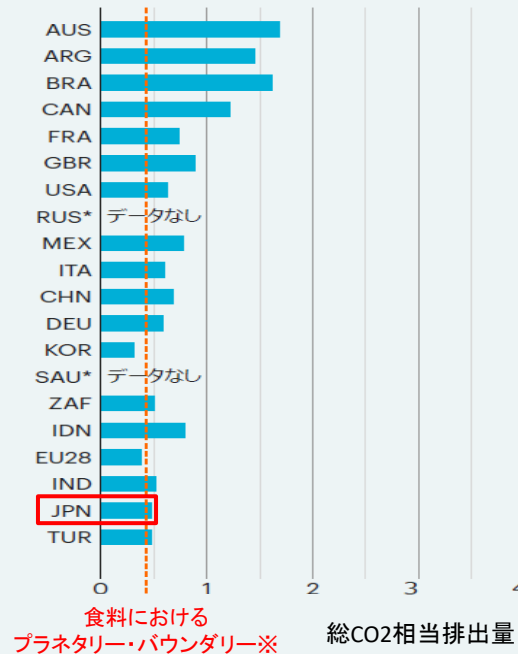
食生活が地球環境に与える影響

- 地球環境問題に対する意識の高まりに伴い、健康面のみならず、地球環境にも配慮した食生活の見直し・実施への関心が高まっている。
- 多くの国が現状からの食生活の改善や、地球環境問題の深刻化に対応した食生活指針の見直しを求められているが、**日本は例外的に調整の必要が少ない**との報告がされている。
- こうした評価は、我が国が、食生活改善面で世界に貢献可能なことを示している。

G20諸国の食生活からの一人当たりの
温室効果ガスの排出量



● 現在の食生活
● 国別食生活指針



※ プラネタリー・バウンダリー：
地球に不可逆的かつ急激な環境変化を与えない目
安(境界線)。この目安を守りつつ、ヒトの健康に
配慮した食事の一例として「プラネタリー・ヘル
ス・ダイエット」が挙げられる。

プラネタリー・ヘルス・ダイエットのイメージ



国連

- ✓ 国際連合のグテーレス事務総長が提唱
- ✓ SDG s
- ✓ 「行動の10年」 2030年まで後10年



食料システム

- ✓ 食料システムとは、食料の生産、加工、輸送及び消費に関わる一連の活動

サミット

- 日程：2021年9月23日・24日、於：ニューヨーク
※バーチャル開催。
※これに先立ち7月にローマでプレ・サミットを開催（ハイブリッド開催）。
- 2030年までのSDGs達成に向けた「行動の10年」の一環として、食料システムを改革するための行動を導くための方途を議論。

食料システムサミットの準備体制

構 成	概 要
食料システムサミット特使	アグネス・カリバタAGRA（アフリカ緑の革命のための同盟）総裁、元ルワンダ農業・動物資源大臣
サミット事務局 （本部：ケニア・ナイロビ）	サミット特使を支援するとともに、サミットの各支援組織を支援
諮問委員会	サミット全体の推進と実施に関する戦略的ガイダンスとフィードバックを提供する、加盟国代表、関連する国際機関、農業者、先住民、市民社会、研究者等で構成
科学グループ	世界中の主要な科学者約30名からなる独立したグループで、議論のためのバックグラウンドペーパーを作成する等により科学的知見を提供
国連タスクフォース	国連システム全体の知識等に基づき、幅広く食料システムの課題を提供
チャンピオンズ・ネットワーク	若者や先住民の指導者、小農や科学者、栄養や健康を含む各分野の専門家を構成員とするグループ

【テーマ設定】

- 食料システムという幅広い分野を扱う

e.g. 世界食料安全保障サミット（2009）は、世界の食料価格高騰を背景に、世界の食料安全保障の確保が主要論点。

←国連本体ではなく、国連の専門機関である国連食料・農業機関（FAO）が主催

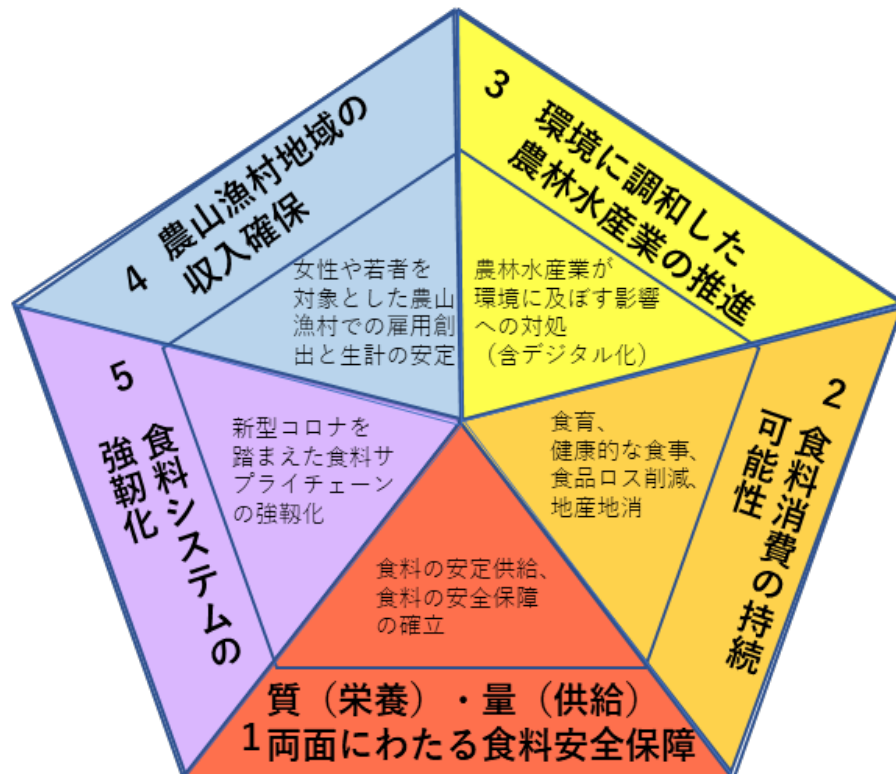
- WTO的な貿易自由化に向けた「交渉」や国連の「先進国と途上国の対立」と異なり、広い視座

- 「人々のサミット」/「解決のサミット」

【幅広い参加を募るための進め方】

- ・ 国も、国際機関も企業も個人もみな同列に参加
- ・ 議論の全体を取りまとめる議長がない

【テーマ（アクショントラック）】



- ・ 具体的な内容に関する議論は国際的なNGOが取りまとめ役を担う5つの「アクショントラック（AT）」グループに委ねられた。

国連食料システムサミットの特徴 2 (続き)

テーマ	議長（敬称略）	所属機関・役職	担当国連機関
①質（栄養）・量（供給）両面にわたる食料安全保障	Lawrence Haddad	GAIN のエグゼクティブディレクター GAIN：栄養改善のためのグローバル・アライアンス。	国連食料農業機関（FAO）
②食料消費の持続可能性	Gunhild Stordalen	EAT Foundation の創設者兼会長 EAT Foundation：スウェーデンのNGO等が立ち上げ。	世界保健機関（WHO）
③環境に調和した農林水産業の推進	Joao Campari	WWF International の食料関係業務グローバルリーダー WWF International：地球環境の保全に取り組む国際NGO。	砂漠化対処条約事務局（UNCCD）
④農山漁村地域の収入確保	Michelle Nunn	CARE USA の会長兼 CEO CARE：米国発の国際協力NGO。	国際農業開発基金（IFAD）
⑤食料システムの強靱化	Saleemul Huq	ICCCAD のディレクター ICCCAD：国際機構変動及び開発センター（バングラデシュ）	世界食糧計画（WFP）

国連食料システムサミットの特徴 2 (続き)

○テーマ別会合（AT会合）等を通じ、2,000以上の解決策が提案され、サミット事務局は、これらを58のクラスター（類似した解決策の集合）に整理。



Compendium Activity Feed Coalitions Coordination Hub ***



Sign in

Sign up

Disclaimer: the solution clusters are work in progress, and many have and will continue to develop their thinking and ideas. Content on this page might thus not display the latest, but does show the wealth of ideas that has emerged out of the UN Food Systems Summit process.

【国連食料システムサミットHP】



Compendium Activity Feed Coalitions Coordination Hub ***



Sign in

Sign up

Search ...

Action tracks

Action Areas

Democratise Access to Future Technology, Inputs, and Finance: Empowering Smallholder Farmers and Healthy and Productive Soils

Solution Cluster 1.1.1

Push the Youth button: African Youth Skills & Advocacy Platform for Future Food Systems

Solution Cluster 1.1.2a

Launch a "Zero Hunger, Nourish the Future" Pledge for the Private Sector

Solution Cluster 1.1.3

Leverage Social Protection for Poverty Reduction, Food Security, and Nutrition

Solution Cluster 1.1.4

Power Community Cooling Hubs with Clean Energy

Solution Cluster 1.1.5

Form a Global Coalition for Children's Diets

Solution Cluster 1.2.1a

Fortify Staple Foods and Crops

Solution Cluster 1.2.2

Accelerate Action for Women's Nutrition, Empowerment, and Leadership Through Gender-Equitable Food Systems

Develop New Standards and Legal Frameworks to Drive Private-sector Change and Hold Companies Accountable

Solution Cluster 1.4.2

Launch a Global Food Systems Data Consortium

Solution Cluster 1.4.3

Address True Costs through a Global Partnership on the True Price of Food

Solution Cluster 1.4.4

School Meals Coalition – Nutrition, Health and Education for Every Child

Solution Cluster 2.1.3

Motivation, Education and Information to Shift Demand for Healthy and Sustainable Food Consumption

Solution Cluster 2.1.1

Healthy Food environment

Solution Cluster 2.1.2

One Health

Solution Cluster 2.1.4

Food Is Never Waste, Halving Food Loss and Waste by 2030

Solution Cluster 2.2.1

【学校給食コアリション】

ACTION TRACK #2:
SHIFT TO
SUSTAINABLE
CONSUMPTION
PATTERNS



Solution Cluster 2.1.3

School Meals Coalition - Nutrition, Health and Education for Every Child

In order to ensure that every child has the opportunity to grow, learn and thrive, a group of member states is forming an international Schools Meals Coalition. This coalition will help to address the COVID-19 pandemic by bringing together governments, United Nations agencies, intergovernmental organizations, civil society, the private sector and academia to drive actions that can urgently re-establish, improve and scale-up school meals programmes in low, lower middle, upper middle and high income countries around the world.

Nutritious school meals are transformative. They are a proven game changer for food systems, the most vulnerable communities, and children in all countries of the world. These programmes help to combat child hunger, poverty and multiple forms of malnutrition. They attract children to school and support children's

Join Working Group

Name *

Email *

Submit

政府の役割：国内対話と道筋（National Pathway）の設定

○各国政府は、

- ・国内の様々なステークホルダーとの「対話」（意見交換）を行い
- ・食料システムの変革を進めるために具体的なアイデアを聴取すること
- ・その上で自国の変革の道筋（National Pathway）を立てて国連に報告することが求められた。



政府はあくまで伴走者の役割

○148か国が国内対話を実施。

○我が国は、2020年1月以来63回の国内での対話を重ね、昨年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」を軸とした「我が国の目指す食料システムの姿」をとりまとめ、国連に登録。

【我が国の目指す持続可能な食料システムの姿】

1 「みどりの食料システム戦略」等に基づく、地域ごとの違いを踏まえた取組の実施

- | | |
|------------------|----------------------|
| (1) 化学農薬・化学肥料の低減 | (6) バランスのとれた食生活の推進 |
| (2) 有機農業の推進 | (7) 水産物の持続的生産体制の構築 |
| (3) 温室効果ガスの排出削減 | (8) 農山漁村発のイノベーションの推進 |
| (4) 持続可能な原料調達 | (9) 民間投資の促進 |
| (5) 食品ロスの削減 | |

2 国際社会と連携した取組の実施

- (1) 自由で公正な貿易ルールに基づく食料サプライチェーンの強化
- (2) 栄養改善、貧困及び飢餓の撲滅に向けた国際貢献



みどりの食料システム戦略に基づき、同様の課題を共有するアジアモンスーン地域で適用可能な技術等の海外展開（アジア諸国の中で先陣を切るぎりぎりのタイミング）



2021年7月にローマで開催されたプレサミットや各種の閣僚会合の我が国の主張の核となる。

食料システムサミット(本会合成果)

1. 日 時 2021年9月23日(木)、24日(金) ※バーチャル開催
2. 主催者 アントニオ・グテーレス国連事務総長

食料システムサミットの公式な成果

1. 国連事務総長による行動宣言の発出

持続可能な食料システムは飢餓の増加、気候変動、生物多様性などの課題に不可欠な解決策とし、科学とイノベーションへの投資、地域の条件に応じた取組、ルールに基づく貿易の重要性等を指摘し、食料システムの変革の方向性、及びその支援・推進体制を提示。

2. 各国政府等からの食料システムの変革に向けた取組の発表

- ・150以上の各国首脳・閣僚や様々な関係者が、食料システムの変革に向けた取組や考えを発表。
- ・我が国からは、菅総理がビデオステートメントを行い、世界のより良い「食料システム」の構築に取り組んでいくとして、①生産性の向上と持続可能性の両立、②自由で公正な貿易の維持・強化、③各国・地域の気候風土、食文化を踏まえたアプローチ、という3点の重要性を強調。
- ・また「みどりの食料システム戦略」を通じ、持続可能な食料システムの構築を進めていく旨発言。

3. 共通の課題に取り組むためのコアリション（イニシアチブ）の形成の動きの紹介

- ・サミット後も関係者が連携、協力した取組を進めるための複数のイニシアチブの形成の動きを紹介。
- ・主なものとして、「飢餓ゼロ」、「健康な食生活」、「学校給食」、「食品ロス」、「アグロエコロジー」、「水産食品」、「AIM for Climate（気候のための農業イノベーション・ミッション）」、「働きがいのある人間らしい仕事と生計のための賃金」が紹介された。

4. 今後の予定 2年ごとにグローバルなストックテイク会合を開催。

食料システムサミットでの各国の主な主張①

●米国（ビルサック農務長官／パワー国際開発庁長官）

「食料安全保障と栄養」、「気候変動の緩和と適応」及び「包摂的で平等な食料システムの創設」が3つの優先分野。今後5年間で100億ドルを投資。うち半分は国内投資、その他は世界の飢餓と食料安全保障に活用。イニシアチブとしては、米国とアラブ首長国連邦で「AIM for Climate」をリード。米国として「持続可能な生産性向上・食料安全保障・資源保全」を創設。また、「学校給食」、「食品ロス」の各イニシアチブへの参加を検討。

●フランス（ル・ドリアン欧州・外務大臣）

パンデミックにより顕在化した脆弱性改善のため、食の主権を強化しつつ、植物性タンパク質の生産を拡大し、カーボンフットプリントを削減。アグロエコロジーに取り組み、食料安全保障、気候変動、生物多様性等に対応。「アグロエコロジー」のイニシアチブを主導。「学校給食」のイニシアチブにも参加。

●イタリア（ドラギ首相）

G20議長国として、持続可能で強靱な食料システムの推進に尽力。6月のG20閣僚会合では、2030年までの飢餓ゼロを目指す「マテラ宣言」を採択。伝統的な食文化を守る健康的な食生活を推進、「万能の解決策はない」ことが重要。2020年、FAOと協力してイノベーションの促進等を目指す「食料連合」を発足。

●ドイツ（ミュラー経済協力開発大臣）

新型コロナは、サプライチェーン分断、雇用機会減少、食料価格高騰を招いた。緊急人道支援の強化が必要。農業投資には、技術移転、エネルギー、土地権利保障、公平公正なサプライチェーン、生産の5分野が重要。

●EU（ティメルマンス欧州委員会副委員長）

食生活を根本的に変革する「Farm to Fork」戦略を策定。持続可能な食料システムへの移行は、世界規模で行う必要。EUは、2050年までにクライメイト・ニュートラルの実現という目標を法律で定めており、より良い農業を推進。また、責任あるビジネスやマーケティング活動のための行動規範を食品企業や小売業者と策定。

●英国（ゴールドスミス環境・食料・農村省閣外大臣）

環境保護、また違法森林破壊を減らすべく、土地利用に関する制度を作成中。全ての政府に、環境に有害な補助金の排除、環境に良い影響を与える補助金の設定を要請する。気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）に向け世界的な森林破壊につながらない持続可能な農業にコミットするアライアンスを立ち上げ中。

食料システムサミットでの各国の主な主張②

●中国（唐仁健・農業農村部部長）

国内の食料生産性向上に取り組み、世界の食料安全保障に貢献。食料問題の解決には、生産能力の増大、効率的で開かれた公正なサプライチェーンの構築、不当な貿易制限の撤廃、食品ロス・廃棄の削減、食料と農業に関するグローバルガバナンスの強化、開発途上国への財政・技術支援等が重要。

●インド（トマル農業・農民福祉大臣）

生産性向上及び、生産者の利益を重視。生産者への直接的な収入支援に取り組んでおり、これまで158億ドルが1億1370万人もの生産者へ給付。また、1万もの新しい農業団体が形成。

国連は2023年をインド主導の「国際雑穀年（International year of millets）」と定めた。開発途上国にノウハウを共有し、持続可能な食料安全保障及び栄養不良の問題に取り組む。

●ブラジル（クリスティーナ農牧食糧供給大臣）

公共政策と衛生規則・基準における科学とイノベーションの重要性を強化。また、生産性向上と天然資源の合理的利用により農業生産を拡大。食品ロス・廃棄の削減に取り組むとともに、消費者への情報提供を通じた健康な食生活を促進。「食品ロス」、「学校給食」、及び「持続可能な畜産」の各イニシアチブに参加。

●南アフリカ（バンドゥオー国際・協力大臣）

自国の4つの戦略的なアクションとして、①安全で栄養価の高い食品の地産地消、②社会・経済・環境面での強靱性、③包括的、持続可能、競争力のあるバリューチェーン、④統合された食料システム政策の促進に取り組む。「飢餓撲滅」、「学校給食」の各イニシアチブ、イタリア・FAOの食料連合へ参加。

●インドネシア（モノアファ国家開発計画担当大臣）

食料システムの変革の要素として、①農業セクターの強化：協力、変革、強靱性、持続可能性の原則に基づき推進、②食料システムに必要な不可欠な小規模農家への支援・支援の分配の拡大、③包括的で強力な様々なステークホルダーとの関係構築、が重要。また、2022年のG20議長国として更なる国際社会の連携を目指す。

野上農林水産大臣と東南アジア各国の農林水産担当大臣の間で、「持続可能な農業生産及び食料システムに関する共同文書」へ合意

Tweet

印刷

令和3年7月19日
農林水産省

～同様の気候条件等を共有するアジア・モンスーンの各国とともに～

本日、東南アジア各国閣僚との「持続可能な農業生産及び食料システムに関する共同文書」に関する合意会合が開催され、我が国からは野上農林水産大臣が出席しました。



日本、カンボジア、ラオス、フィリピン、シンガポール、ベトナム、マレーシア、タイ

2. After 食料システムサミット

コアリションによる議論の継続

- コアリション（イニシアティブ）は、食料システムサミットの議論を継続するために、特定のテーマの下、政府やNGO、国際機関がゆるやかな連合をつくるもの。
- 日本が参加を表明・あるいは関心を有している、学校給食、水産食品、食品ロス、AIM for Climate のうち目にみえた活動が行われているのは学校給食、水産食品及びAim for Climate のみ

活動状況	主なコアリション名	概要
	「飢餓ゼロ」	飢餓の削減に向け、政府や民間セクター等が実施する様々な取組の連携、資源投入の拡大等
	「健康な食生活」	女性、児童、先住民など脆弱な立場に置かれた人々も含め、全ての人々が、持続可能な生産システムを通じた健康な食生活を実現
◎	「学校給食」	2030年までに、健康的かつ栄養価の高い学校給食を全ての児童に提供。 我が国も参加。
	「食品ロス」	食品廃棄・ロスの削減のための統合的アプローチの実施、知見の共有・連携
	「アグロエコロジー」	アグロエコロジーの取組（リサイクル、投入材の削減、土壌保全、動物福祉、生物多様性等）に基づく、食料システムの変革
◎	「水産食品」	水産食品を主要な栄養源として位置づけ、その保全と発展、小規模漁業者支援、各国・地域の食文化の尊重、各国・地域の食文化の尊重、気候変動などに取り組む
◎	「AIM for Climate（気候のための農業イノベーション・ミッション）」	農業及び食料システムにおけるイノベーション及び、研究開発促進が目的。米国及びアラブ首長国連邦が主導。国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）（2021年11月）で立ち上げ。 我が国も参加。
	「働きがいのある人間らしい仕事と生計のための賃金」	食料システムに関わる全ての労働者の、権利や人権の保護、経済・社会的正義の確保、適切かつ栄養価の高い食事へのアクセス改善

他の国際的な会合との接続

2021. 11月 12月 2022. 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2023. 1月

生物多
様性条
約(CBD)

10/11-15
COP15第1部
(オンライン)

3/14-29
下部会合

(時期未定)COP15 第2部
(中国・昆明)

ポスト愛知目標合意を目指す

気候変動
枠組条約

10/31-11/12
COP26(英グラスゴー)

森林・土地利用イベント、
持続可能な農業への移行に関する対話

11/7-11/18
COP27(エジプト)

G7

議長国
ドイツ

5/13-14
農業大臣会合

6/26-28
サミット

独は気候変動に極めて高い関心

議長国
日本

G20

10/30
サミット
(ローマ)

議長国
インドネシア

9/13-15
農業大臣会合

11/15-16
サミット

議長国
インド

その他

2/28-3/2
UNEA5
(ナイロビ)

6月(P) WTO
MC12

漁業補助金交渉
合意を目指す

2022 APEC
議長国タイ

11/3-4
OECD農業大臣会合
(パリ)

農業生産性向上と
環境の両立がテーマ

みどりの食料システム戦略の着実な実施

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）

2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、

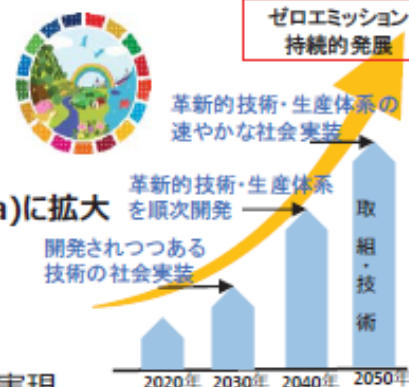
今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。

2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。

補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

官民円卓会議の概要

【官民円卓会議の設置目的】

- 昨年9月の**G20農業大臣会合**では、各地の文化、歴史、生産システム、消費形態、伝統を考慮しつつ、**持続可能な強靱な食料システムへの変革**を進める必要性が共有された状況。
- 同月の**国連食料システムサミット**でも、持続可能な食料生産システムへの変革を促進するため、関係者が**SDGsの達成に関与**すべきとの行動宣言を採択。
- こうした国際的な動向に対応し、我が国の実情に合った変革を具体化していくため、**関係者が対話し、情報・認識を共有する場**として「**持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議**」を設置。

【会議メンバー】

官：農林水産省、地方公共団体

民：食品企業（製造、卸、小売、外食）、農業団体、経済団体、金融機関、商社、消費者団体、NGO

【会議運営の基本方針】

- ❑ 社長はじめ経営幹部が参加（開催頻度は年2回程度、オンライン）
 - 世界的視野に立って大局的・建設的な意見を対等な立場で提案
- ❑ 円卓会議の下にテーマ別の作業部会を設置（議論できる実務者の参加。開催頻度は各テーマの議論の進捗に応じて適宜）
 - 円卓会議に作業部会での検討を報告
- ❑ 当面の事務作業は農林水産省が担当
 - 民間メンバーは最低1つの作業部会の運営に関与（2以上の作業部会の議論に参加）
- ❑ 会議中に得た情報を外部で自由に引用・公開
 - 他方、発言者や属性を特定する情報は非公開（チャタムハウスルール）

御清聴ありがとうございました。